

養殖カキのへい死の状況（1）（各県からの聞き取り）

○カキ養殖を行っている各県に状況を確認。瀬戸内海の各県において、多いところで7～9割のへい死が発生している。

○推測される要因は、高水温は共通しているほか、高塩分、エサ不足、貧酸素等が挙げられている。

※平時のへい死割合は一般に3～5割

凡例：①へい死の程度、②推測される要因、③令和6年の生産量（生産量割合）

1. 広島県（西部海域）

- ① 地区により異なるが
2年貝で2～9割
3年貝で5～9割
- ② 長期の高水温、貧酸素、高塩分
- ③ 94,290トン（63.6%）※県全体

2. 広島県（中部海域）

- ① 地区により異なるが
2年貝で4～9割
3年貝で8～9割
- ② 長期の高水温、高塩分
- ③ 94,290トン（63.6%）※県全体

3. 広島県（東部海域）

- ① 2年貝が6～9割（3年養殖はなし）
- ② 長期の高水温、高塩分
- ③ 94,290トン（63.6%）※県全体

4. 岡山県

- ① 地区により異なるが
1年貝で1～7割
2年貝で7～8割
- ② 高水温、高塩分、降水量の減少
- ③ 14,671トン（9.9%）

5. 兵庫県

- ① 地区により異なるが
おおよそ7～9割
- ② 高水温、エサ不足
- ③ 7,348トン（5.0%）

6. 山口県

- ① 地区により異なるが
おおよそ3～6割
- ② 高水温、エサ不足、降水量の減少
- ③ 18トン（0.1%未満）

12. 大阪府

- ① 7～9割
- ② ヘテロカプサの増加
- ③ 25トン（0.1%未満）

7. 愛媛県（今治市）

- ① ほぼ全量
- ② 高水温、貧酸素
- ③ 573トン（0.4%）※県全体

11. 徳島県（瀬戸内海側）

- ① 地区により異なるが
おおよそ3～9割
- ② 高水温・エサ不足など
- ③ 91トン（0.1%未満）

8. 愛媛県（愛南町）

- ① 10月、11月導入の中間貝が
おおよそ7割へい死
- ② 中間貝の生産不良
- ③ 573トン（0.4%）※県全体

9. 高知県

- ① 1年貝が9割へい死
2年貝は平年並み
- ② 不明
- ③ ー

10. 香川県

- ① 地区により異なるが
おおよそ7～8割
- ② 高水温など
- ③ 763トン（0.5%）

養殖カキのへい死の状況（2）（各県からの聞取り）

○瀬戸内海以外の地区について、宮城県の一部の地区でも例年以上のへい死発生が見られた。

※平時のへい死割合は一般に3～5割

凡例：①へい死の程度、②推測される要因、③令和6年の生産量（生産量割合）

13.福岡県

- ①例年並み
- ②—
- ③1,464トン(1.0%)

14.三重県

- ①例年並みか少ない
- ②—
- ③1,716トン(1.2%)

15.岩手県

- ①概ね例年並みだが、一部地域で2、3年貝がへい死
- ②高水温など
- ③5,058トン(3.4%)

16.宮城県（北部）

- ①地区により差があるがおおよそ2～9割
 - ②高水温など
 - ③15,190トン(10.3%)
- ※県全体

17.宮城県（中～南部）

- ①地区により差があるがおおよそ2～8割
 - ②高水温など
 - ③15,190トン(10.3%)
- ※県全体

各県からの聞取り情報まとめ（1）

※2026年3月6日現在

No.	地区	へい死の程度	身入り	海洋状況	推測される要因
1	広島県 (西部海域)	地区により異なるが 2年貝で2～9割 3年貝で5～9割	例年より悪いが、1月後半から徐々に身入りの向上が見られる	高水温、貧酸素、高塩分	長期の高水温、貧酸素、高塩分による生理障害
2	広島県 (中部海域)	地区により異なるが 2年貝で4～9割 3年貝で8～9割	例年より悪いが、1月後半から徐々に身入りの向上が見られる	高水温、高塩分	長期の高水温、高塩分による生理障害
3	広島県 (東部海域)	2年貝が6～9割 (3年養殖はなし)	例年より悪いが、1月後半から徐々に身入りの向上が見られる	高水温、高塩分	長期の高水温、高塩分による生理障害
4	岡山県	地区により異なる。 1年貝で1～7割 2年貝で7～8割	ほとんどの地域で例年より小さいが、年明け以降、身入りの向上が見られる	6月下旬から9月中旬まで、水温が前年より2℃高く推移。9月中旬以降は昨年並み。	高水温、高塩分、降水量の減少
5	兵庫県	地区により異なるが、 おおよそ7～9割	例年よりかなり小さい。 2月末時点で少しずつ身入りの向上が見られる	夏季の高水温期間が長かった。 夏季のクロロフィル量が少なかった。	高水温、エサ不足
6	山口県	地区により異なるが おおよそ3～6割	例年並みか、小さい	夏場の高水温の継続	高水温、エサ不足、 降水量の減少
7	愛媛県（今治市）	ほぼ全量	例年よりかなり小さい	高水温、貧酸素	高水温、貧酸素
8	愛媛県（愛南町）	10月、11月導入の中間貝が、 おおよそ7割へい死	生残した貝の身入りは概ね良い	水温が例年よりやや高かった。	中間貝の品質
9	高知県	1年貝が9割へい死 2年貝は平年並み	2年貝は例年並み	水温、塩分、酸素濃度はR6年と大きな変化なし。	不明
10	香川県 (漁業者等からの聞取り)	地区により異なるが おおよそ7～8割	例年より小さい	高水温、エサ不足	高水温、エサ不足、貧酸素
11	徳島県（瀬戸内海側）	地区により異なるが 3～9割程度	例年より小さい	鳴門市では8月下旬から9月中旬まで平均より水温が高く、 底層の酸素濃度も低かった。	高水温、貧酸素、エサ不足
12	大阪府	7～9割	例年並みか、小さい	高水温、 ヘテロカブサの増加	高水温、 ヘテロカブサの増加

各県からの聞取り情報まとめ（2）

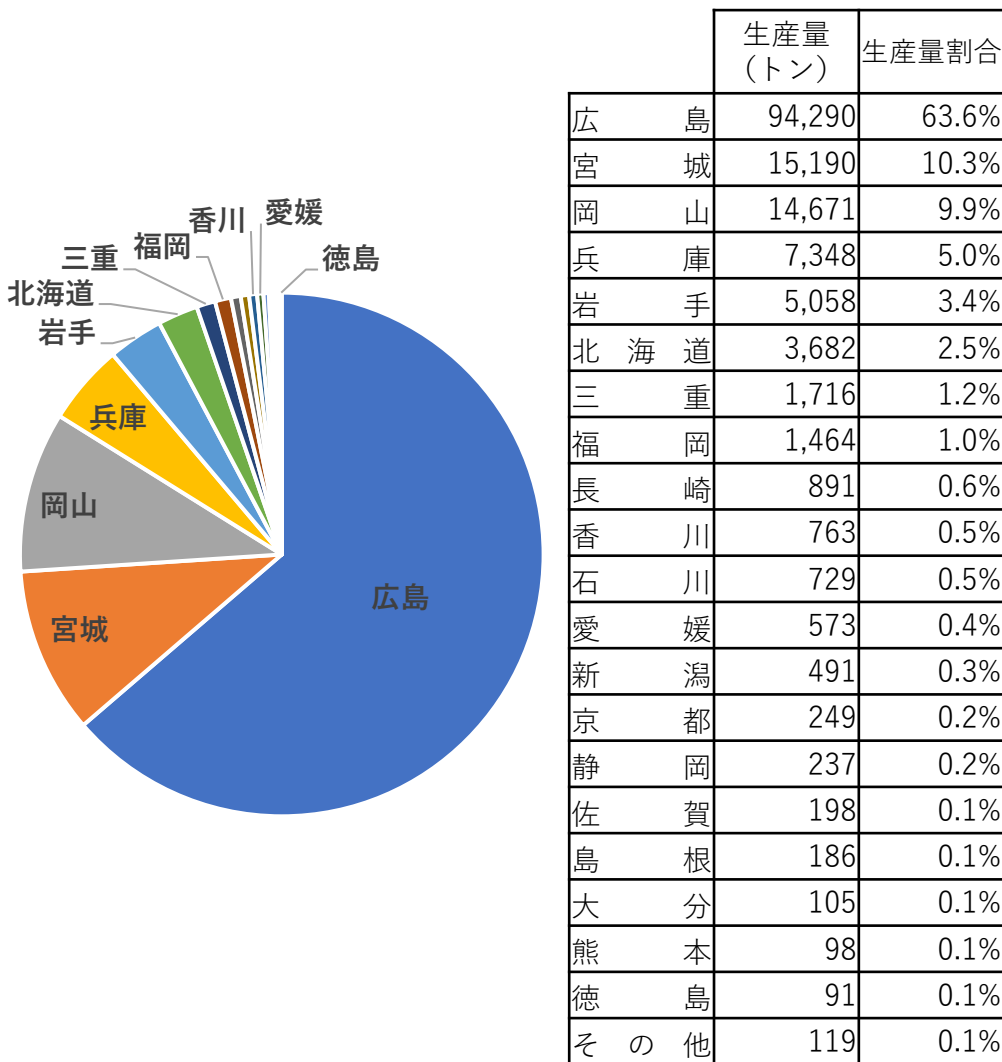
※2026年3月6日現在

No.	地区	へい死の程度	身入り	海洋状況	推測される要因
13	福岡県	例年並み (例年3～5割)	例年並みか、やや小さい	夏季の水温が例年よりも高く推移。	—
14	三重県	例年並みか、少ない	例年並み	8月中旬以降、水溫が前年より2～3℃低く推移。	—
15	岩手県	概ね例年並みだが、一部地域で2,3年貝がへい死	例年並みか、やや小さい	夏季の水溫が例年よりも高く推移した。	高水溫
16	宮城県(北部)	地区により差があるが、おおよそ2～9割	例年より悪い地域が多いが12月以降身入りが向上	夏季の水溫が例年よりも高く推移した。	高水溫等
17	宮城県(中部、南部)	地区により差があるが、おおよそ2～8割	概ね例年並みだが、一部地域で身入りが遅い		

※本資料では 1年貝：令和6年採苗
2年貝：令和5年採苗
3年貝：令和4年採苗 とする。

【参考】養殖カキの主な生産地

産地別生産量割合（2024年）



産地別生産量の推移

